

95. ズワイガニ *Chionoecetes opilio*

(O. Fabricius) 図版39、40

英名 snow crab, queen crab

露名 クラブストリグン
краб-стригун

地方名(北海道) ズワイ、ヨシガニ

漢字 ずわいがに
楚蟹

【形態】 甲は丸みのある三角形でやや平たい。体色は黄褐色。甲の両側縁は鳃域*に覆われない。甲の各域は深く分かれ、鳃域の側縁で斜め後方に走る顆粒の列が、ハの字形をなす。ベニズワイガニ *Chionoecetes japonicus* では、この顆粒列の後端付近に1本の棘*がある。甲を横から見ると、甲の後縁から前側縁へと走る顆粒列は、ズワイガニでは上下2列であるが、ベニズワイガニでは後縁で2列なのが側縁でつながり1列になる。ズワイガニの甲面後方の傾斜は、ベニズワイガニと異なりゆるやか。

近縁のオオズワイガニ *C. bairdi* も良く似るが、ズワイガニは口上板*の^{こうじょう}下縁が水平なのに対し、オオズワイガニはM字形である。

【生態】 北極海のアラスカ沿岸、グリーンランド西岸、北米の大西洋およ

び太平洋沿岸、ベーリング海、南米のチリ沿岸、オホーツク海、日本海、^{いぬぼつさき}犬吠埼以北の太平洋沿岸に広く分布する。主に大陸棚*縁辺部の水深200~450mの海底に生息する。ベーリング海には本種とオオズワイガニの交雑*個体が多く生息する。

成体*に達するのは、山陰沖では雌で平均甲幅*77mmであり、ふ化後9~10年(11齢期*)かかるが、オホーツク海では雌は平均甲幅53mmから成体となり、成体になる体サイズは海域によって差がある。

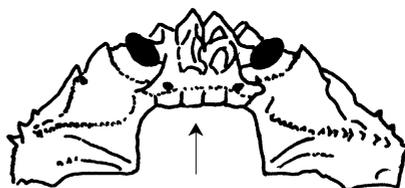
山陰沖のズワイガニが初めて産卵する時期は6~8月であるが、2回目以降は2~3月に行われ、1年に1回である。産卵前に行われる交尾*で雌体内の受精のう*に蓄えられる精子によって、卵は受精する。受精卵は雌の腹部に抱かれたまま^{はい}胚*の発生が進み、初回産卵の雌では産卵から1年半あまり、2回目以降では1年後の2~3月ごろふ化する。ふ化後まもなく次の産卵をする。オホーツク海では、産卵期およびふ化期は5~6月が中心で、産卵は2年に1回と推測されており、日本海と大きく異なる。卵は球形、直径は0.7mmほどで、発生が進むにつれて大きくなる。抱卵数*は2万~12万粒で、大型個体ほど多い。

ふ化直後の幼生*はプリゾエア*で、2期のゾエア*期と、メガロパ*期を経て着底*する。山陰沖では、ふ化後9~10年で第11齢期となり、平均甲幅が雄91mm、雌77mmに達する。雌は最終脱皮*をして成体となり、その後は脱皮しない。雄も最終脱皮を行い、第11齢期前後で^{かんきやく}鉗脚*が大きい形態的成熟*個体となる。雄では最終脱皮を行う齢期が個体によって異なるために、形態的成熟個体が複数の齢期群で構成される。

オホーツク海では、甲幅80~140mmの範囲で、平均甲幅85mm、98mm、112mm、124mm、134mmの齢期群が認められ、それぞれ第11齢期~15齢期と推定されている。

餌生物は、甲殻類や二枚貝、クモヒトデ類*が主で、このほかに魚類、イカ類、ゴカイ類*、巻き貝、ツノガイ類*など。摂餌は夜間に活発となる。

ズワイガニ



口上板の下縁は水平

オオズワイガニ



口上板の下縁はM字形

ズワイガニとオオズワイガニの正面図